

日本財団パラリンピックサポートセンター・ 筑波大学共催シンポジウム

～パラリンピック教育がもたらす共生社会 障がい者理解を目指して～

東京2020パラリンピック競技大会の開催を契機として、スポーツの価値や共生社会の意義を学ぶために、オリンピック・パラリンピック教育が全国展開されつつある。以前は、オリンピック教育の一環として取り上げられがちであったパラリンピック教育ではあるが、今日では、パラリンピックの特有の理念や価値を伝えるべく、新たな教材およびゴールボールや車いすバスケットボールなどのパラスポーツの紹介を含む独自のプログラムが開発されている。

本シンポジウムでは、パラリンピック教育の国際比較と、日本国内における障がい者理解教育の取り組みと課題について検討を行い、共生社会実現に向けたパラリンピックおよびパラスポーツ関連教育に対する提言を導き出すことを目的とする。

参加料

無料

- * 日時 9月2日（日）10：00～13：00 受付開始9：30～
- * 会場 日本財団ビル2階大会議室（東京都港区赤坂1-2-2）
- * 言語 日本語・英語（同時通訳つき）

- * 主催 日本財団パラリンピックサポートセンター（パラサポ）
- * 共催 筑波大学つくばスポーツ国際アカデミー（TIAS）
- * 協力 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、筑波大学オリンピック・パラリンピック総合推進室

お申込み
お問い合わせ

（1）お名前（2）フリガナ（3）ご所属・役職を明記して以下のアドレス宛に、Eメールにてお申し込みください。情報面や移動面でサポートを希望される方は、事前にご連絡ください。

メール件名：9月2日シンポジウム参加申し込み

Eメールアドレス：research@parasapo.tokyo

日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会
Tel：03-5545-5991（平日9：00-17：00 担当：中島・矢島・池田）

プログラム

10:05～10:45 基調講演

多様性を重視した嘉納治五郎の教育
国際パラリンピック委員会が「I'm^{アイム}POSSIBLE」に寄せる期待

真田 久 (筑波大学)
マセソン 美季 (パラサポ)

10:45～11:25 第1部 パラリンピック教育事例の国際比較

1. イギリス キャスリン・マコール (英国EdComs社)
2. オーストラリア トニー・ナー (オーストラリア・パラリンピック・ヒストリー・プロジェクト)

11:35～12:05 第2部 国内におけるパラスポーツを題材とした障がい者理解教育の取組み

1. 「あすチャレ！ School」が伝えるもの 根木 慎志 (パラサポ)
2. 心のバリアフリー 石飛 了一 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

12:05～12:55 総合討論

モデレーター：齊藤 まゆみ (筑波大学)
全パネリスト

登壇者プロフィール (登壇順)



真田 久 (Hisashi Sanada)

筑波大学体育系教授。同大TIASアカデミー長。筑波大学体育専門学群卒、同大学院体育研究科修了。博士 (人間科学)。10年設立のIOC公認「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム」事務局長として、附属学校11校とともにオリンピック・パラリンピック教育の展開に携わる。



マセソン 美季 (Miki Matheson)

パラサポ推進戦略部プロジェクトマネージャー、IPC教育委員会メンバー。IPC公認教材I'mPOSSIBLE日本版の開発・普及に携わる。アイススレッジスピードレースで、98年長野パラリンピックで金3、銀1獲得。



キャスリン・マコール (Kathryn McColl)

英国教育系コンサルタント会社EdComsリサーチ・ディレクター。英国教育省勤務を経て、04年～12年に、ロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会の教育マネージャーを務める。パラリンピックを普及するための学校教育プログラムの開発・運営を担当した。



トニー・ナー (Tony Naar)

オーストラリア・パラリンピック・ヒストリー・プロジェクトマネージャー。00年3月からオーストラリアパラリンピック委員会 (APC) スポーツプログラムを担当。その後APCにて広報、IT、国際等を担当する傍ら、05年には、パラリンピック教育プログラム再構築プロジェクトの責任者となり、15年まで、APCの上級経営幹部を務める。筑波大学への留学経験を持つ、元オーストラリア代表バレーボール選手。



根木 慎志 (Shinji Negi)

パラサポ「あすチャレ！ School」プロジェクトディレクター。00年シドニーパラリンピック車いすバスケットボール日本代表チームキャプテン。「あすチャレ！ School」の講師として全国各地で授業を行う。日本パラリンピック委員会運営委員も務める。



石飛 了一 (Ryoichi Ishitobi)

筑波大学附属大塚特別支援学校教諭。東京都IDボウリング連盟事務局長。99年から現職。途中5年間の千葉県公立特別支援学校での人事交流を経験。15年より文部科学省の受託事業を活用し、スポーツや文化芸術活動を通じたインクルーシブ交流に取り組んでいる。



齊藤 まゆみ (Mayumi Saito)

筑波大学体育系准教授。筑波大学大学院体育研究科修了。代表を務める「アダプテッド体育・スポーツ学研究室」には30名の大学院生、学群生が所属している。専門はアダプテッド・スポーツ科学であり、現在の研究テーマはデフスポーツ・パラスポーツにおける競技力向上、アダプテッド体育・インクルーシブ体育。